

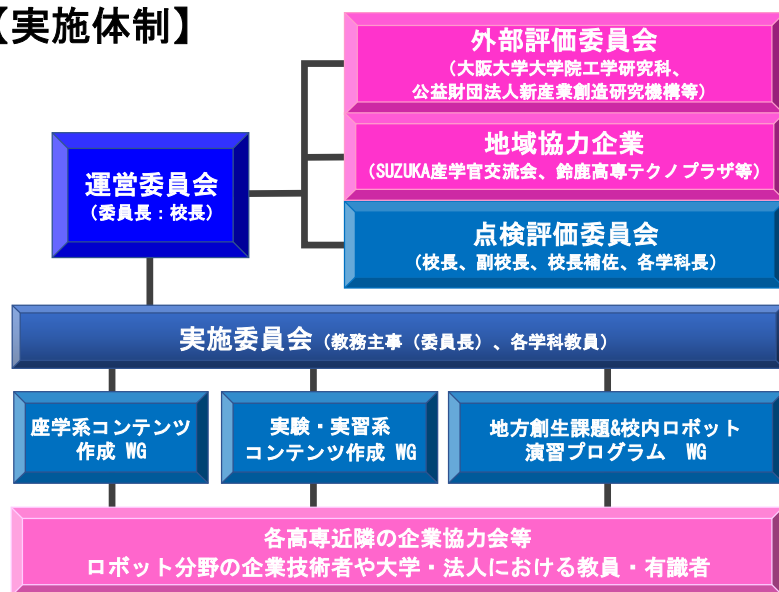


【取組の目的・内容】

社会ニーズ結果をもとにして、産業界が求める「特化した技術を有する人材の確保」に応えるべく、中堅・中小企業で活躍できるIoTやロボットを活用したシステムの構築・導入を支援できる人材の育成を行う。

本事業では、必要な知識の裾野を拡げるために、ロボットエンジニア育成事業で製作しているコンテンツの一部を用いることにより、社会が必要とするロボット基礎教育の実践を行う。また、特化した高度教育による尖った人材を育成するため、今後必要となる人工知能やビックデータの進展に対応するための高度な内容の座学を実践するために必要なコンテンツを作成する。さらに、同一課題（地方創生につながる課題）について、学科横断的な多分野学生（複数人チーム）がロボット製作やプログラミングで解決する「変形ハッカソン」を、企業経営者や技術者の助言や指導を受けながら実施する。

【実施体制】



【工程表】

H29年7月～	① 冊子・パンフレット作成 ② ロボットエンジニア育成事業で作成した教育コンテンツの一部実施 ③ 人工知能やビックデータの進展に対応するための座学コンテンツの作成
H29年10月～	上記②, ③に加え, ④ 同一課題について、学科横断的な多分野学生（複数人チーム）がロボット製作やプログラミングで解決する「変形ハッカソン」を実施 ⑤ 地方創生課題/校内ロボット演習プログラムの実施
H30年4月～	上記②～⑤
H30年10月～	上記②～⑤

成果指標

成果指標	28年度	30年度（目標値）
本事業体験学生の満足度アンケート評価	未実施	5段階評価, 3.8以上
ロボット関連企業への就職割合の増加	13.7% (26～28年度平均)	18% 以上
教育プログラムおよびコンテンツの企業評価	未実施	5段階評価, 3.5以上

【第4期中期目標期間への展開（見込み）】

人工知能・ビックデータの進展に対応できる人材の育成を目指して、必要な知識の裾野を拡げるための基礎教育だけでなく、特化した高度教育を行うことにより、産業界が求める「特化した技術を有する人材の育成」を実現する。また、33年度には、教育コンテンツのパッケージモデルや高度な先端ロボット技術に関するコンテンツを機構内に配信する。